

良好な環境創出シンポジウム

**地域の
ウェルビーイング
を支える水環境の創出**

法政大学 准教授
野田 岳仁

<https://nodakehito.com>

自己紹介

名水百選・長良川（中流域）

岐阜県関市出身

法政大学 現代福祉学部

大学院人間社会研究科

准教授 野田 岳仁（のだ たけひと）

博士（人間科学）

専門は環境社会学・地域社会学・観光社会学

“水とコミュニティ”の社会学を構想

単著に『井戸端からはじまる地域再生—暮らしから考える防災と観光』（筑波書房）

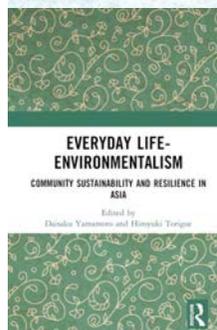
JCA 研究ブックレット No.32

井戸端からはじまる地域再生

暮らしから考える防災と観光

野田 岳仁◇著
小田切 徳美◇監修

筑波書房



本講演の位置づけ

第6次環境基本計画

環境保全や環境創出を通じて

地域住民のウェルビーイングを高めることが盛り込まれた

地域住民のウェルビーイングとは

なにげない
日常

人の
つながり

大きな目標や立派な理念よりも
もっとも身近な自然である“水”
水場が支えている

良好な水環境の創出は

人びとのウェルビーイングを支えることにつながる

本講演の目的

水環境の創出のプロセスで
問われることとはなにか？

“地域のウェルビーイング”とは
どのようなものか？



良好な水環境の創出は
人びとを惹きつける観光資源にもなる



誰に向けられたメッセージ？



京都 祇園



滋賀県高島市針江集落

誰に向けられたメッセージ？

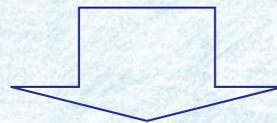
大衆的な観光地



観光客

観光は経済的な効果が大きいい一方で
地元住民には迷惑な存在でもある

地元住民にいかに理解してもらうかがポイント



地元住民に迷惑がかからないように
マナーを守る観光が要請されている

誰に向けられたメッセージ？

アクアツーリズムの現場

針江区内 見学のみなさまへ

ここは、観光地ではありません。

生水（湧水）の恵を受け、自然とともに暮らしている生活の場です。

私達の暮らしを知っていただくために、散策は必ず地元ガイドと一緒に見学カード（右下図）を身に着けた状態をお願いします。

針江区内に見知らぬ方がおられることに、子どもやその親が敏感になっています。

ガイドを伴っておられない方には、目的をお訪ねするとともに、場合によっては区外に退去をお願いすることもありますので、ご理解をお願いいたします。

なお、ガイドをご利用されたい方は、針江生水の郷委員会0740-25-6566
携帯電話090-3168-8400まで、ご連絡ください。

針江区長

針江生水の郷委員会



観光客

大衆的な観光地とは異なり
マナーを守る観光を要請するだけでは
地域社会はアクアツーリズムを受容できない

では、誰に向けられているの？

滋賀県針江集落におけるアクアーツーリズム





ハタイケ

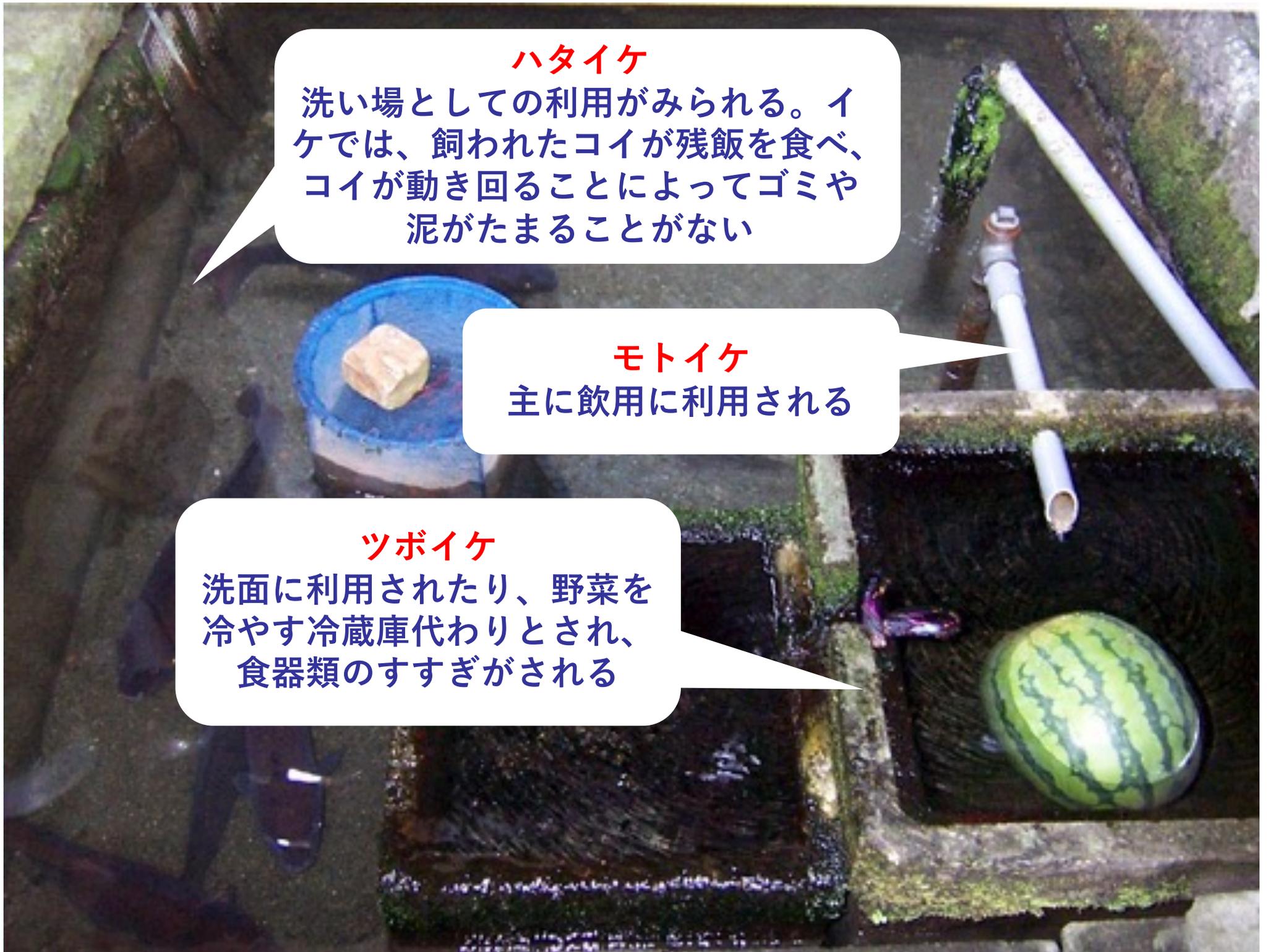
洗い場としての利用がみられる。イケでは、飼われたコイが残飯を食べ、コイが動き回ることによってゴミや泥がたまることがない

モトイケ

主に飲用に利用される

ツボイケ

洗面に利用されたり、野菜を冷やす冷蔵庫代わりとされ、食器類のすすぎがされる





ようこそ！ 針江生水の郷へ ちょっとMap in 針江

針江公民館
針江の中心地。水車は区のシンボル。

梅花藻群生地
梅花藻群生地。

針江浜 ヨシ・ノウルシ群落
湖周道路沿いに面している浜側にノウルシが生息。針江浜（大久保）の瀧地一面に4月中旬頃に黄色の花を咲かせている。

琵琶湖

湖周道路

中島自然地
NHKで放映されたとても心に残る風景。船着場にヨシ群落があり自然の生庫。川岸に野草も豊富。

針江日吉神社
5月3日は春の祭り。宵宮には鐘と太鼓が響きわたり、祭りをもちあげてくれる。

かばた道
川沿いに昔ながらのかばた。

針江のんきいふあーむ

中山工房
クラフト・カバタとんぼ。素材で味わいのある作品。

霜降

上原豆腐店
創業100年の老舗。今も昔も変わらぬ手作り豆腐は絶品。

正伝寺
曹洞宗正伝寺境内の亀ヶ池には、水が湧き出ている。またせりの群生があり、きれいな水でないと生息しない。

小池地区 かばた
こんこんとあふれ出る湧き地区。

浄栄寺

石津寺

日吉神社

前田商店

針江公民館

生木の宮

おさかな屋

上原豆腐店

正伝寺

深溝



“非日常性”を求める観光客の関心の変化

自然資源（信仰）



歴史・文化資源



生活資源



公



私

誰もが知っている名所や観光スポットには飽き飽きしている
誰も知らない隠れたスポット、SNSで投稿されていない場所こそ見たい

“観光客は表舞台よりも舞台裏に関心を持つ”

“観光地で暮らす本物の暮らしをみたい”

観光社会学者 ディーン・マキヤーネル

(マキヤーネル, 2012)

アクアツーリズムの悩ましさ

アクアツーリズムは、地域内の水環境を活用して地域空間で展開される観光実践

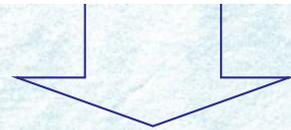
本来観光地ではなかった

生活空間が観光に巻き込まれてしまう

地域社会は決して一枚岩ではない！

アクアツーリズムに積極的な人、反対する人、無関心な人さまざま

地域住民が納得できる観光のあり方でなければ
地域社会が葛藤を抱えてアクアツーリズムは停滞



持続可能なアクアツーリズムとは？

針江集落は地域葛藤を乗り越えて

年間1万人の観光客が訪れるアクアツーリズムを運営

地域が葛藤を抱えた理由とは？



“突然人がやってきましたので、まず子どもの安全が心配でした。次第に住民の方々からカバタが荒らされるのではないかということや、戸締りの心配の声があがりました。ただ、せっかくお客さんがおみえになるのに喧嘩して帰ってもらうのは申し訳ない。それならば、針江の住民がお客さんについて案内をさせてもらおう、ということになりました。ただし、針江を決して観光地にはしたくないというおもいがありました”



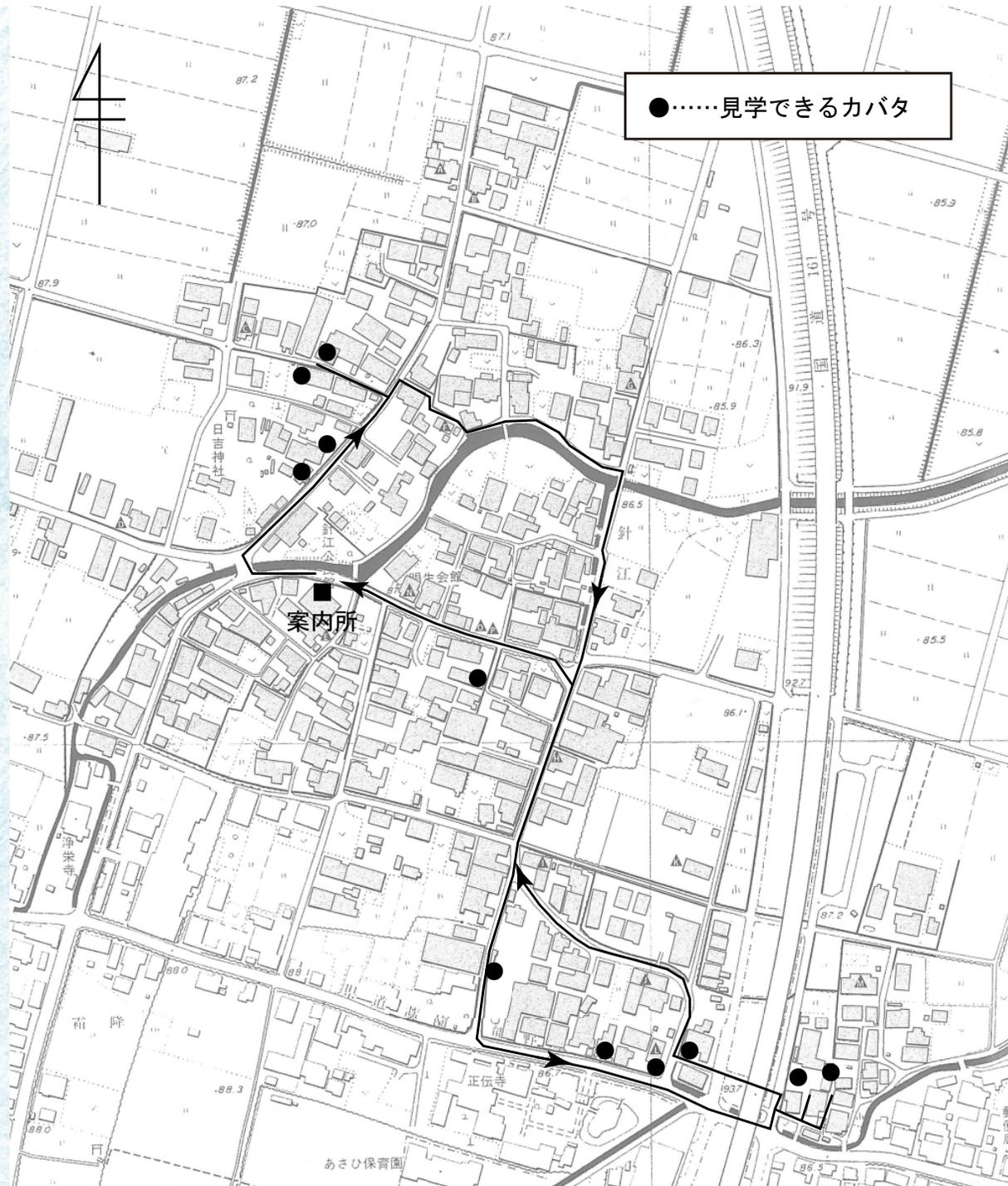
観光に取り組む組織を立ち上げ（針江生水の郷委員会）
ガイドツアーを運営

考案された見学ツアー

	見学コース	1人の参加料金	食事の有無
A	カバタとまちなみコース ボランティアガイドによる各家庭のカバタの見学、まちなかの散策。	1,000円	なし
B	里山湖畔コース 針江大川下流の船着き場の見学。琵琶湖湖岸の葦原の保全活動、在来種の魚を増やす取り組み「うおしまプロジェクト」の視察。	1,000円	なし
C	A+B 上記AコースとBコースの見学。	2,000円	なし
定期コース	A+B 上記AコースとBコースの見学に軽食が提供される。また、座話等で地元の人たちとの交流の時間がある。	2,500円	軽食付き

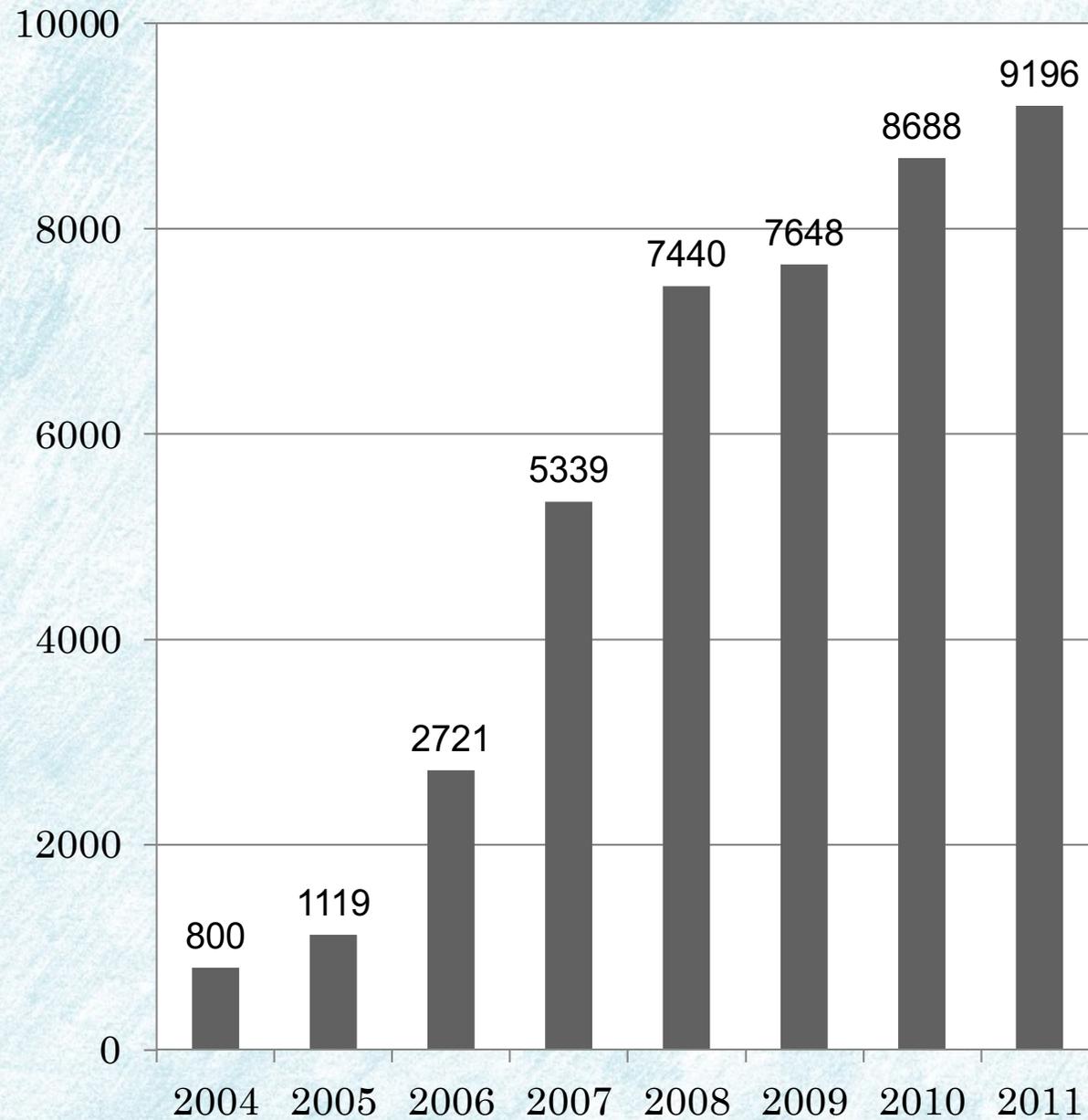
(生水の郷委員会公式ホームページをもとに筆者作成)

- ・ あえて高額な料金設定をした（成熟した観光客に向けて）
- ・ 地元住民のガイド役として見学者についてカバタを見て回る



見学ツアーによって、空間と時間を管理 → 観光客をコントロール

観光客数の変化（人／年）



2011年をピークに、それ以降の観光客数の受け入れを制限

観光客にマナーを遵守させる工夫



- ・ 観光に取り組む組織を立ち上げ
- ・ ガイド役は観光客を監視
- ・ 見学料は1人1000円～
- ・ 見学可能な空間と時間を制限
- ・ 見学者の自由な散策は許されない

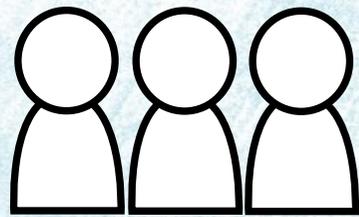
観光の根本にある観光客の自由や自発性を制限

観光客のマナーを守る観光を实践

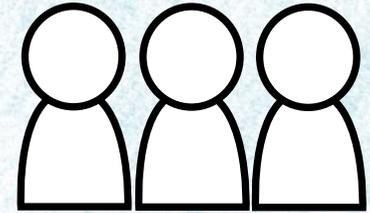
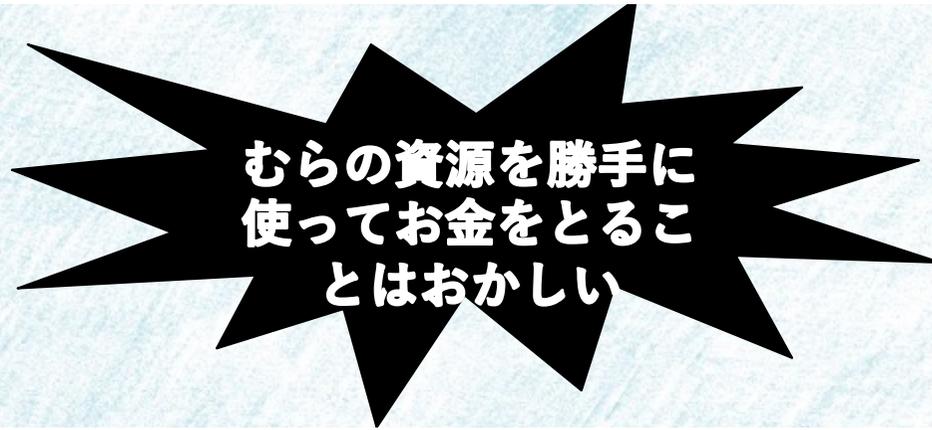
⇒ 住民の生活を守るため評価されるべき対応策

しかしながら、地域の葛藤は解消されない・・・
この問題の本質とは？

住民の不満とは？



地域住民

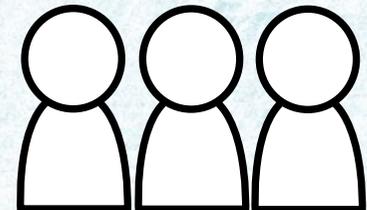
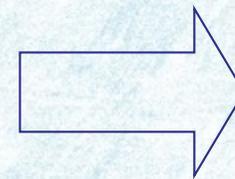
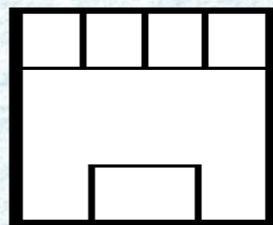
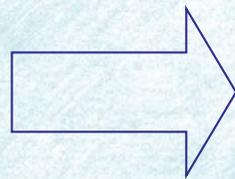
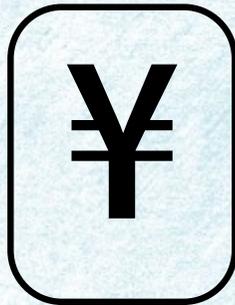


地域住民

アクアツーリズムが新たな資源利用機会を生み出したことを問題視

地域住民に理解してもらうために

約1000万円の売り上げから利益を集落に還元



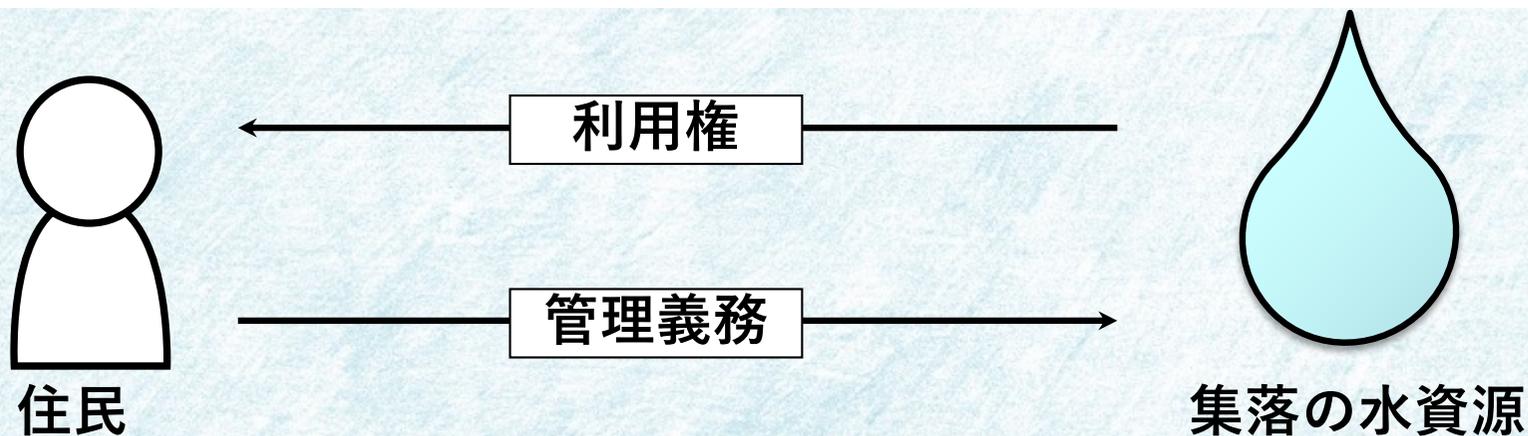
平等性に配慮して集落の施設に設備投資
集落の社会組織に物品購入や寄付

ところが「お金で解決しようとしている」と批判を受けた

カバタの利用と管理の仕組み



全戸参加の年4回の川掃除、1回の溝掃除が義務
管理義務（掃除）をすることでカバタの利用が許される



集落の水資源は貨幣交換できないルール
管理を担ってこそ水資源の利用が許される

水資源をめぐるルールとは？

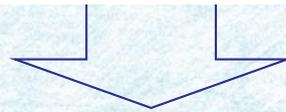
人びとは住民の理解を得ようと、川掃除に乗り出していく



外部のボランティアを集めて川掃除を行った

住民に評価されるどころか、これも批判を受けた！

川掃除は地域住民の義務であり“むらしごと”
このルールを破ってしまえば、誰もやらなくなってしまう



人びとは反省して、水資源のルールを守ったうえで、
住民の暮らしを充実させる活動にも乗り出していく

地域住民のウェルビーイング向上を目指した活動



水路にコイを放つ／プランターを設置／竹やぶの保全活動／常夜灯の設置

集落の暮らしにとって、ありふれた周辺的な活動にみえる

⇒ 住民の暮らしを豊かにする活動として高く評価
アクアツーリズムは地域社会に受容されるようになった



地域住民が納得して受け入れるには、
水をめぐるローカル・ルールを守る必要がある！
そのうえで“アクアツーリズムが住民の暮らしを
どのように豊かにしてくれるのか”が問われる

ローカル・ルールは観光地の俗化の防波堤

観光用カバタ設置をめぐる・・・

観光客の要求を受けて、観光客が飲用したり、足をつけられるカバタをつくってみよう！

男性

観光用カバタ設置は取り止め

むやみやたらにつくってはいけない。カバタは神聖なもの。魚は食べるために殺すなら仕方ないけど、魚を遊びで殺すことはいけないのと同じ理由から反対！

女性

カバタは観光資源ではなく「生活にいただくもの」

ローカル・ルールを守ることが観光地の俗化を防ぐ

誰に向けられたメッセージ？

アクアツーリズムの現場

針江区内 見学のみなさまへ

ここは、観光地ではありません。

生水（湧水）の恵を受け、自然とともに暮らしている生活の場です。

私達の暮らしを知っていただくために、散策は必ず地元ガイドと一緒に見学カード（右下図）を身に着けた状態をお願いします。

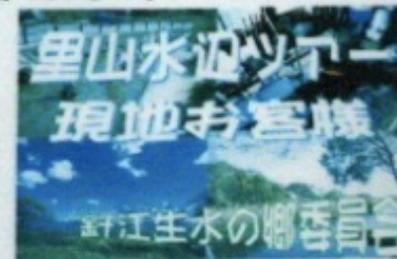
針江区内に見知らぬ方がおられることに、子どもやその親が敏感になっています。

ガイドを伴っておられない方には、目的をお訪ねするとともに、場合によっては区外に退去をお願いすることもありますので、ご理解をお願いいたします。

なお、ガイドをご利用されたい方は、針江生水の郷委員会0740-25-6566
携帯電話090-3168-8400まで、ご連絡ください。

針江区長

針江生水の郷委員会



観光客 地域住民

地域葛藤の経験から、地域住民に向けて、観光地化せず
住民生活を守ること、ローカル・ルールを守ることが宣言



持続可能なアクアツーリズムを実現するには、
ローカル・ルールを守ったうえで“アクアツーリズムが住民
の暮らしをどのように豊かにできるのか”を検討する必要

アクアツーリズムとは？

大衆的な観光



観光客のマナーを守る観光を要請

国際的な観光のルール（世界観光倫理憲章）

地域社会に配慮

（ゴミ騒音問題、自然・生活環境破壊、犯罪行為禁止）

アクアツーリズム



地域のローカル・ルール

を守る観光を要請

地域空間での観光と生活の両立が可能

本講演のまとめ

**水環境の創出のプロセスで
問われることとはなにか？**

水環境の創出によって
“当該地域の住民の暮らしを
どのように豊かにしてくれるのか”が問われる

“地域のウェルビーイング”とはどのようなものか？

ともすれば、水環境の創出による経済的利益の最大化や観光客数の増加
を目指しがちだが、必ずしもそうではない

それよりも、地域のローカル・ルールを守ることや
水路にコイを放ったり、竹やぶの保全活動といった
あふれた**日常生活の充実を目指すことが大切**となる

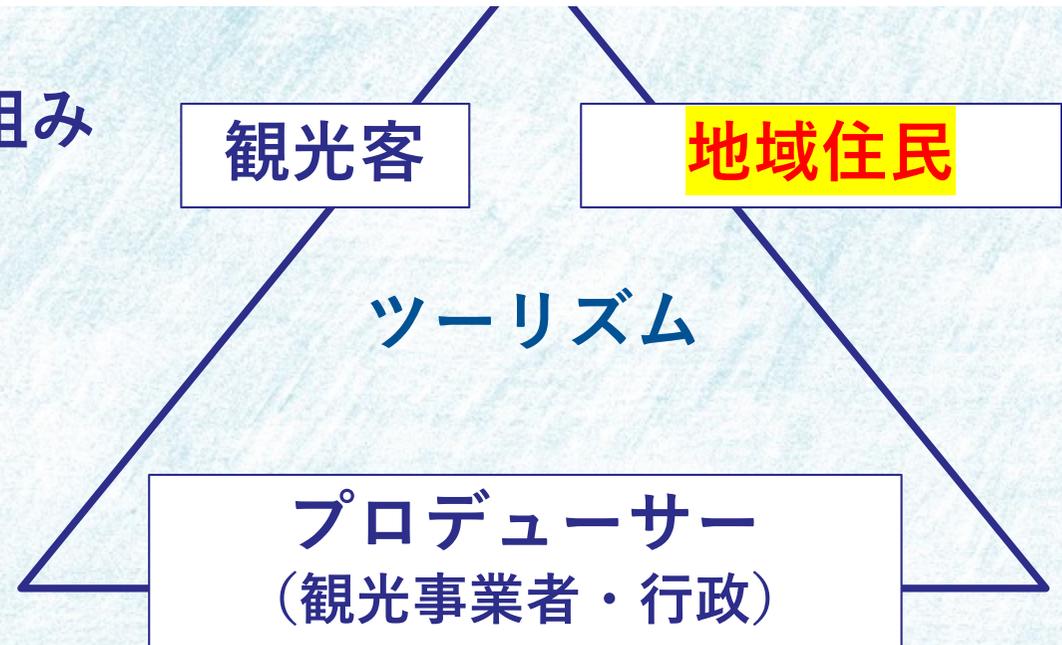
地域住民のウェルビーイングは非経済的活動によって支えられている

アクアツーリズムを捉える視点

これまでの観光研究の枠組み

(須藤・遠藤, 2012)

3つの立場から
相互関係を分析



アクアツーリズムの現場では

“アクアツーリズムがどのように暮らしを豊かにしてくれるのか”

“地域社会にとっての幸せとはなにか？” (=ウェルビーイング)

が問われている

⇒ それに応答するためには、**地域住民の立場に立って、問題の本質を見極め、地域社会の志向性・創造性を捉える必要がある**

文献

- 須藤廣・遠藤英樹, 2012 『観光社会学2.0』 福村出版
- 野田岳仁 (2013) 「観光まちづくりのもたらす地域葛藤 — 「観光地ではない」と主張する滋賀県高島市針江集落の実践から」 『村落社会研究ジャーナル』 20 (1)
https://doi.org/10.9747/jars.20.1_11
- 野田岳仁 (2014) 「コミュニティビジネスにおける非経済的活動の意味—滋賀県高島市針江集落における水資源を利用した観光実践から」 『環境社会学研究』 20
https://doi.org/10.24779/jpkankyo.20.0_117
- 野田岳仁 (2018) 「コモンズの排除性と開放性—秋田県六郷地区と富山県生地地区のアクアツーリズムへの対応から」 鳥越皓之・足立重和・金菱清編 『生活環境主義のコミュニティ分析—環境社会学のアプローチ』 ミネルヴァ書房
- 野田岳仁 (2019) 「環境と観光はどのように両立されるのか？」 足立重和・金菱清編 『環境社会学の考え方—暮らしを見つめる12の視点』 ミネルヴァ書房
- ディーン・マキャーネル (2012) 『ザ・ツーリスト』 安村克己他訳、学文社